

Ⅱ 研究の目的と方法

1 本研究の目的

本研究は、経験の浅い教員の資質能力の向上と校内研修の効果的・効率的な実施を目指し、特別支援学校と特センが連携・協力して校内研修の取組を充実させ、人材育成を図ることを目的として推進する。

各学校における研修を行う上での課題、研修の取組、経験の浅い教員とそれを支える指導教諭の状況を把握しながら、実際に各学校で活用が可能な「特別支援学校教員スタート・プログラム」（以下、プログラム）を作成し、学校の取組を支え、本道における特別支援教育に関わる経験の浅い教員の資質能力と、特別支援教育の質の向上を目指す。

2 研究の方法

○ アンケート調査

学校における初任段階教員研修の実態やニーズを把握・分析し、プログラムの内容及び活用の工夫に生かすことができるようアンケート調査を行う。アンケートは、初任段階教員が意欲的に学ぶことができるようにするとともに、指導教諭による指導や助言の質を高め、研修の効果を高めるための調査として実施した。

○ 研究協力校との取組

実際の研修を想定し、研修資料（スライド）の構成や内容について検証を重ねながら作成することができるよう、研究協力校とプログラムを試行的に活用して研修を行う。

今年度、初任段階教員（1年次）が複数在籍する、北海道美深高等養護学校と北海道室蘭養護学校の2校に依頼し、研修を実施する他、初任段階教員研修の計画や取組状況についての情報提供、研修の充実に向けたプログラムの内容に関する意見や要望についての聞き取りなどについても協力を得た。

○ プログラムの作成

調査等で得られた知見を、学校現場で活用できるようプログラムとして取りまとめ、普及を図る。

本プログラムにおいては、初任段階教員研修（1年次）の学校計画研修の中で活用できるものとして作成を目指すことから、「経験の浅い教員」を本研究では初任段階教員1年次及び2年次（以下、初任段階教員）を対象とする。なお、プログラムの活用にあたっては、対象はこの限りではない。

また、視覚障がいや聴覚障がいの特別支援学校において、知的障がいを併せ有する児童生徒の割合が増加傾向にあることから、知的障がいの特別支援学校に加えてプログラムを広く活用できると考え、本研究では研究協力校を知的障がい特別支援学校とし、プログラムの一部について知的障がいの内容について作成した。